

認知症専門相談

「物忘れがひどくなった」「ぼんやりしていることが多くなった」など気になることはありませんか？市では認知症に関する相談を受けています。お気軽にお問い合わせください。

- 対象者
認知症やその心配のある高齢者、認知症の人の家族
- 日程
毎月第2金曜日 13:30～15:00
※相談日以外でも対応します。
- スタッフ
認知症専門嘱託医、認知症地域支援推進員、保健師
- その他
要予約
- 問い合わせ先
高齢介護課



▲相談の様子

オレンジ見守り訪問（認知症初期集中支援チームによる訪問）

認知症の人（疑いのある人）やご家族のご家庭に訪問し、認知症に関する情報の提供や医療機関の受診、介護保険サービスの利用に関する説明や助言、心理的サポートを行います。まずはご連絡ください。

- 対象者
40歳以上で、自宅で生活している認知症（疑い）症状などでお困りの人
- スタッフ
認知症専門嘱託医、認知症地域支援推進員、保健師
- その他
要予約
- 問い合わせ先
高齢介護課



▲認知症地域支援推進員

早期発見・早期対応

認知症の早期発見・早期対応は、その後の認知症の人の生活を左右する重要なことです。しかし、独居であったり、家族が受診を勧めても受診する気持ちにならなかったりと、早期治療に結びつかないケースもあります。市では、「認知症専門相談」や「認知症初期集中支援チーム」の設置を行い、認知症の早期発見・早期対応を推進しています。

身近な人ほど気づきにくい

いつもと違うという変化には、身近にいる人や家族が気づきやすいこともありますが、逆に身近にいる人だからこそ気づきにくい側面もあります。記憶低下が始まって日常生活は繰り返しの繰り返しで、そこには何の問題も感じず、ふとした出来事をきっかけにあらわさるようなパターンが多いようです。

認知症とは脳の病気により認知機能が低下して生活に支障が出る状態、つまり生活障害です。原因になっている病気はいろいろありますが、一番多いのがアルツハイマー型認知症。全体の6〜7割を占めています。また、受診する人の1割は、認知症ではなく、治せる病気の場合もあります。認知症はゆっくり始まり、ゆっくりと進行していく病気です。初期症状が現れてから診断を受けるまでに、大体1年以上経過していることが多く、現在、高齢者の5〜6人に1人、2025年には5人に1人が発症すると言われています。誰にでも起こりうる病気です。

認知症を正しく理解することが大事

諫早市認知症専門嘱託医の宮田先生にお話を伺いました



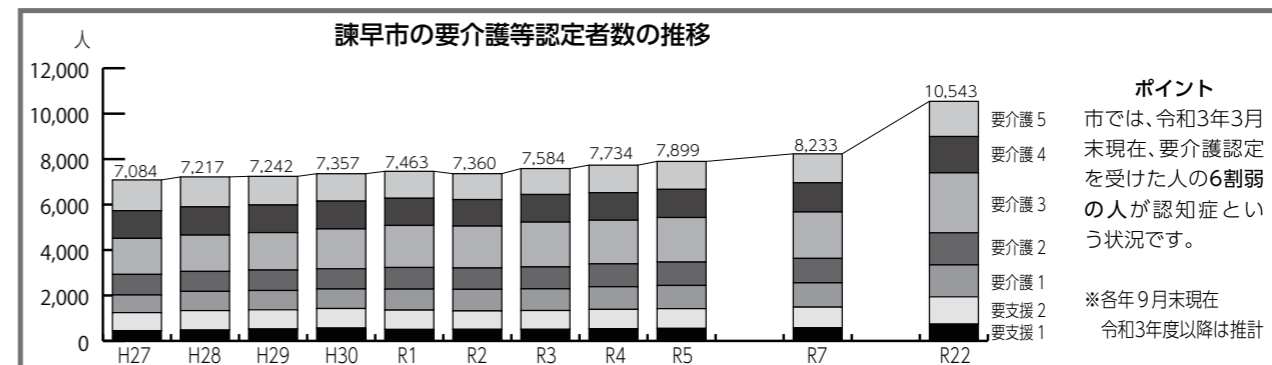
あきやま病院 宮田 史朗 先生

まずは早期に診断を

今は、介護サービスがとて充実し、社会で支える仕組みができています。また、認知症疾患医療センターや精神科病院、医師会の先生たちとの連携も進み、地域包括支援センターも積極的に相談を受けています。そこで、まずは早期に診断を行うこと。そして適時適切なタイミングで介護や医療を入れていくこと。そのため皆さんが認知症を正しく知り、理解していくことが一番大事なことだと思っています。

放っておくと事態が複雑化
認知症に気づいても「まだ大丈夫」「どうせ治らない」などと放っておくとだんだん社会的な問題や家族の問題などが複雑化していきます。たとえば、妄想や徘徊、介護者の疲弊や家庭の崩壊、孤立、近隣トラブルなど。従来、認知症にはそういった負のイメージがありました。そこで私たちはまず、この病気のイメージを変えることに取り組んでいます。皆さんが認知症を正しく理解し早期に対応することで、社会的な困難に陥っていくことを回避できるのです。諫早では、早期の支援のために「認知症ケアパス」を作ったり、「認知症専門相談」や「認知症初期集中支援チーム」を設置しています。

諫早市の要介護等認定者数の推移



ポイント
市では、令和3年3月末現在、要介護認定を受けた人の6割弱の人が認知症という状況です。
※各年9月末現在
令和3年度以降は推計

諫早市地域包括ケアシステム特設WEBサイト「高齢者ささえあいネット」

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、役立つ情報を掲載しています。



諫早市 高齢者ささえあいネット

検索

